

まちづくりに関する 取組事例

- 校区コミュニティ（防災訓練・松林清掃活動）
- 市民活動団体×個人ボランティア（SON福岡×玄界高校生）
- 道の駅整備検討（意見募集・タウンミーティングによる市民参画）
- 子どもわくわくフェスタ（実行委員会による市民と行政との共働）

校区コミュニティの活動例：防災に対する取組

・古賀東校区コミュニティ協議会

- ・ H20年設立、約3,800世帯9,000人
- ・ 青少年部会・防犯防災部会・環境整備部会によって活動
- ・ 毎年、防犯防災部会を中心に大規模な防災訓練を実施

(昨年度の実施状況)

令和元年10月26日（土）9時～14時頃まで

場所：古賀東小学校

参加者：各区公民館に集合	239人
小学校に集合	126人
小学校児童	450人
延べ参加者	815人



防災訓練（古賀東校区コミュニティ）

- 校区コミュニティと小学校と一緒に防災訓練を実施

- 防災行政無線からの指示で
自宅 → 公民館 → 小学校 への避難訓練

- 小学生の避難訓練（教室からグラウンドへ避難）

- 消防署の訓練（はしご車による救助訓練）

- 体験コーナーの開催

（救急講習、消火器体験、消防車放水体験、リヤカー体験、煙体験 等）

- 子どもを保護者へ引き渡し訓練

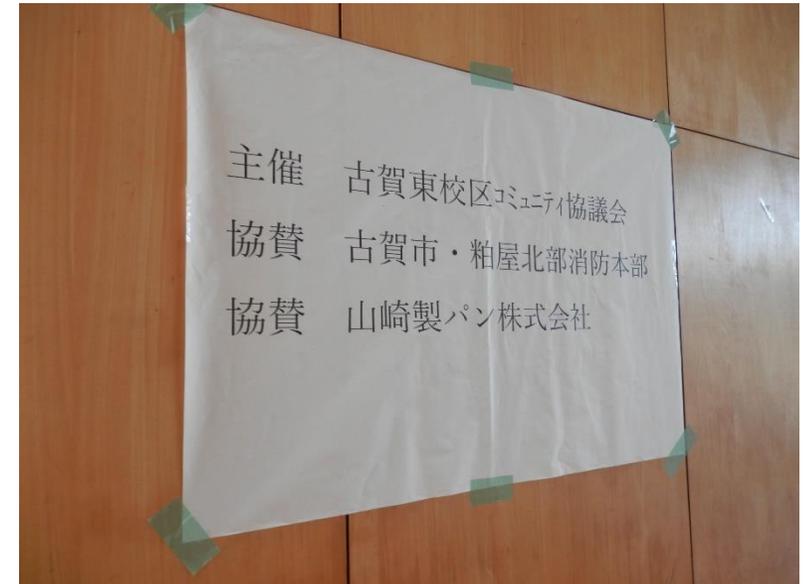


防災訓練のようす



防災訓練（行政との共働）

- 展示物の設置
- 備蓄食糧の提供
- 企画・運営支援



- 消防自動車出動、消火器体験等の実施（糟屋北部消防署）

防災訓練（古賀東校区コミュニティ）

• 反省点・今後の課題

- 小学校の参加により昨年までとは異なった内容で行うことができた。
- 一般参加者たちを最後までとどめることができなかつた。
- 子どもたちに地域との関わりを持たせることができてよかった（学校談）。
- 受付方法を今後検討する必要がある。

校区コミュニティの活動例：松林清掃の取組

・古賀西校区コミュニティ運営協議会

- ・ H23年設立、約4,800世帯10,000人
- ・ 青少年部会・防犯部会・環境保全部会・健康スポーツ部会によって活動
- ・ 白砂青松といわれる松林を守るため、毎月第1・第3日曜に清掃活動を実施



松林清掃の取組（古賀西校区コミュニティ）

- **中川区防風林を守る会（毎月第3日曜日 8時30分～1時間程度）**

平成17年、ひとりの「草やぶのごみ拾いをやろう。松林を綺麗にしよう」の呼びかけから始まった。平成25年の校区コミュニティ環境保全部会設立を機に、中川区と古賀南区の2区共同体制で行っている。

- **西っ子憩いの松原（毎月第1日曜日 9時～1時間程度）**

平成17年、先人たちが守り続けていた松林を元の姿に戻し、子どもたちに引き継ごうと有志が集まり清掃活動を開始。古賀北区・日吉台区・鹿部区の3区と共同で行っている。小学校の子どもたちの環境学習や中学校生徒のボランティア受け入れ等も行っている。

松原清掃の取組（行政との共働）

- ・ 活動費の支援（松枝回収委託）
- ・ 松葉の回収及び処分



市民活動団体の活動例：

市民活動団体 × 個人ボランティア

(団体) 公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・福岡

×

(個人) 高校生ボランティア

市民活動団体×個人ボランティア

・スペシャルオリンピックス（SO）とは：

知的障がいのある人たちに、日常的なスポーツプログラムと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供し社会参加を応援している国際的なスポーツ組織。

スペシャルオリンピックス日本・福岡（SON・福岡）は、古賀市千鳥ヶ池公園のテニスコートでテニスを行っている。



古賀市での活動

- 毎月第2・3・4土曜日 10時～12時
- 古賀市千鳥ヶ池公園テニスコート

市民活動団体×個人ボランティア

・つながりひろば（市民活動支援センター）によるマッチング：

SON・福岡は、定例の活動に参加してくれるボランティアを常時募集していた。

相談を受け、つながりひろばが千鳥ヶ池公園の前にある玄界高校に相談。高校を通じて、高校生ボランティアを募集することができた。

つながりひろばで事前の顔合わせやボランティアをする際の心得（準備会）を行ったうえで、実際の活動に参加するという流れ。

市民活動団体×個人ボランティア

• 団体にとってよかったこと

- 高校生ボランティアが毎回練習のたびに参加してくれていること
- SOの活動を知ってもらい、知的障がい者のことを知ってもらう場となること
- アスリート（知的障がい者）の喜び、普段以上のテニスプレイを見せてくれること

• 高校生ボランティアにとってよかったこと

- SOの存在を知ることができたこと
- 何度も参加することでアスリートさんに覚えてもらえたこと
- ダブルスを組んだあと笑顔でありがとうって言ってもらえたこと

市民参画の事例：道の駅整備検討について

道の駅整備可否の方針決定までの概要

H29	古賀市観光拠点設置可能性調査 (観光拠点の必要性、候補地の選定 等)
H30	7月 道の駅基本計画(暫定案)策定開始
	3月 道の駅タウンミーティング(1回目)
	3月 道の駅基本計画 暫定案 策定
H31	6月 市民への意見募集(～7月)
	6月 道の駅タウンミーティング(2回目)
	8月 道の駅基本計画(暫定案)の策定で得られた知見、市民や事業者から寄せられた意見、議会からの指摘などをふまえ、総合的に勘案し、市長が「道の駅は整備しない」と方針決定した。

市民への意見募集について

道の駅整備の可否を判断するにあたって、
市民等の意見を重要な方針決定の参考とするために実施

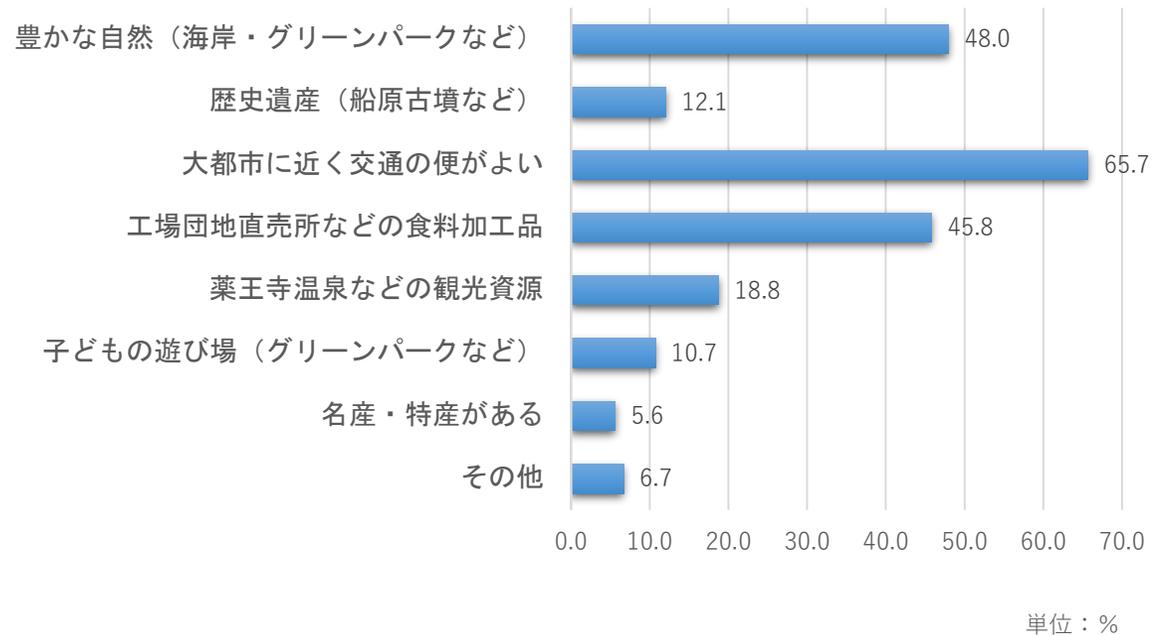
対象：古賀市民、市内に事業所等を所有する者、市内に在勤・在学している者、案の利害関係者

意見募集方法：全戸回覧、ホームページや公共施設等で呼びかけ

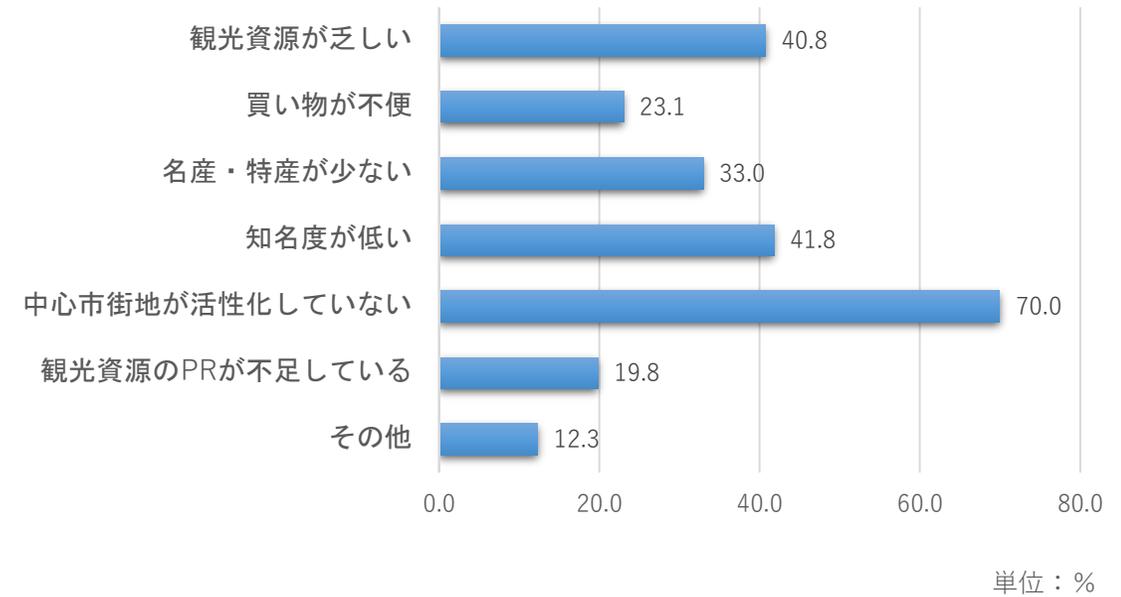
回答者数：373人

市民への意見募集について

・古賀市の強み



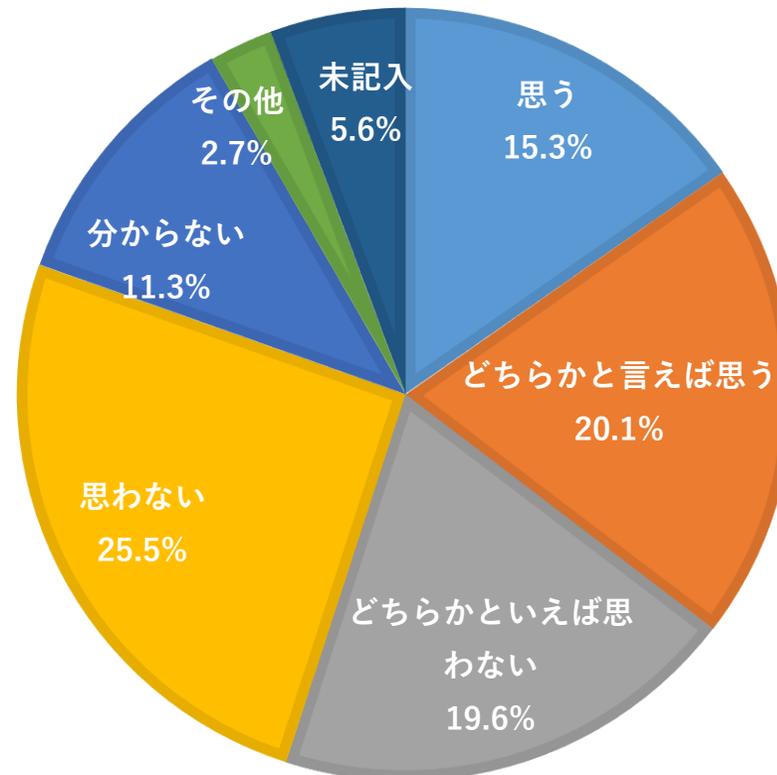
・古賀市の弱み



市民への意見募集について

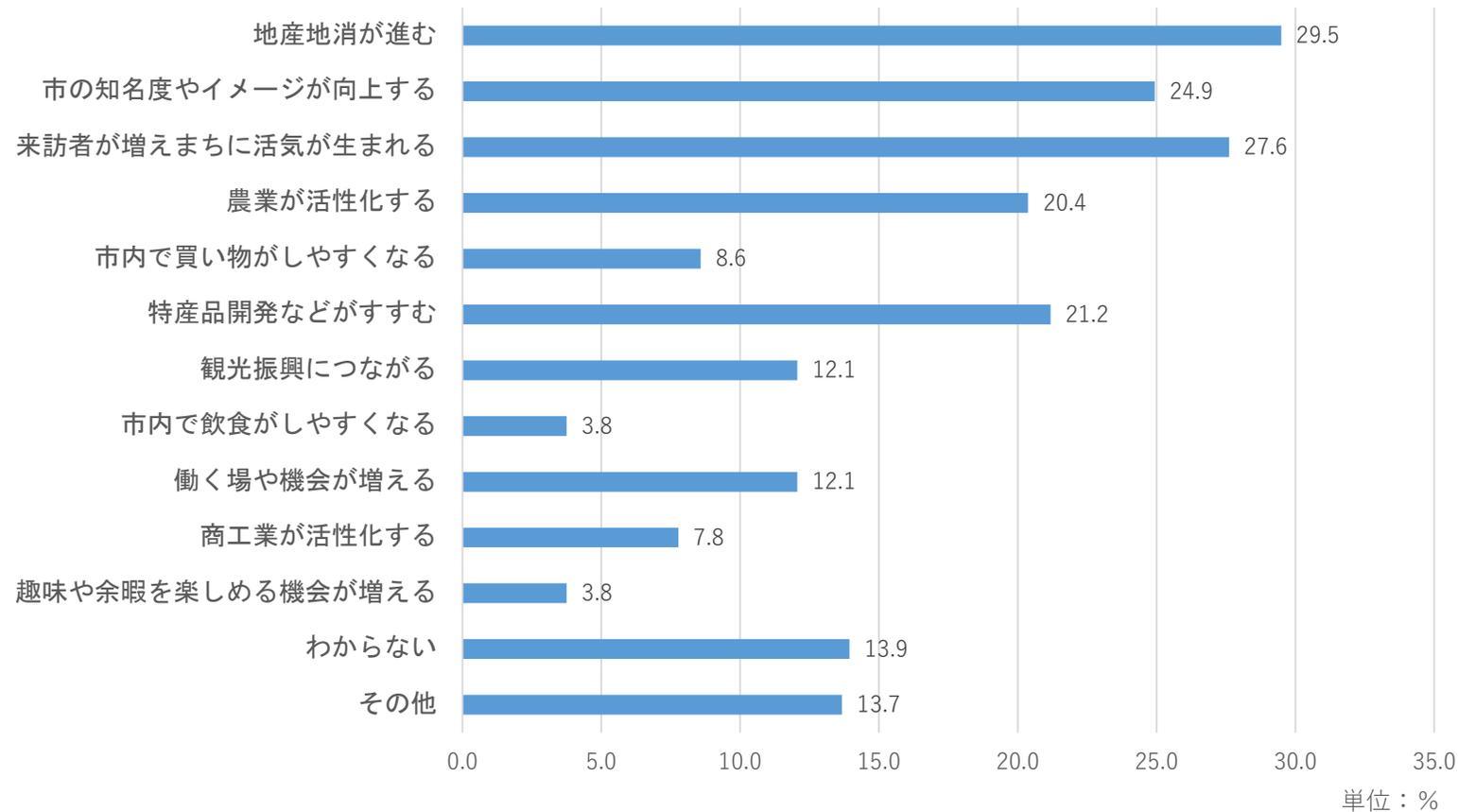
- 道の駅の計画が「強み」の向上や「弱み」の解消につながるか

回答比率



市民への意見募集について

- 道の駅の計画がどのような効果をもたらすことを期待するか



道の駅タウンミーティング（2回目）について

市長が直接市民と話し合える場づくりとして開催

104人が参加

市から暫定案について説明後、意見交換

- ①事前に意見を募集し、内容を分類して「見える化」とともに分類した内容ごとに市長が回答
- ②その場で挙手していただき直接質問、市長が回答（12人）



なぜ、意見募集・タウンミーティングの機会をつくったのか

- ・「道の駅整備基本計画（暫定案）」についてはパブリック・コメント手続の対象となるものではなかった。
- ・パブリック・コメントの方式では「暫定案」に対する意見のみ。市民や事業者との対話を通じて、「道の駅を整備するかどうか」を含めて、市の産業振興についてどう取り組んでいくのかという大局的な観点からの率直な意見交換が必要だった。

共働の事例：子どもわくわくフェスタ

- 子どもわくわくフェスタとは：

市内の子ども育成活動団体（12団体）が実行員会を組織し、計画準備から実施までを担う。行政は事務局として全般に関わる。

リーパスプラザこがを会場に、子どもたちによるステージづくりや参加団体による体験型ブースの設置、飲食の提供等を行い、子どもたちがさまざまな体験に触れ、家族や友だちと楽しく一日を過ごせる場とする。

（昨年度の実施状況）

令和元年11月24日（日） 10時～15時 リーパスプラザこが

参加団体：31団体 参加人数：延べ1,500人

子どもわくわくフェスタのようす



実行委員会だからできること・よかったこと

- 各団体が主体的・能動的であり、全般においてほぼ自力で行っている。
- 体験活動のノウハウが多彩。行政だけでは提供できない。
- 自分たちでできることを団体側から提案してくれる。
- 行政は新たな参加団体とのつなぎ、特に若い世代とのつなぎ（教育大学、看護大学との連携）